

留学報告書

Keck Medicine of University of Southern California



日本医科大学 6 年 長谷英一郎

April 1st/2024~April 26th/2024

0. はじめに

第 6 学年海外選択 CC でアメリカ合衆国カリフォルニア州ロサンゼルスにある Keck Medicine of University of Southern California の Neuroradiology で 4 週間実習を行ったので、留学に至るまでの準備や現地での記録、現地で学んだことなどをここに記したいと思います。

1. 出国前の準備

1-1 応募まで

1-1-1 TOEFL に関すること

海外 CC に参加するための条件は以下のように定められています。

- ① 日本医科大学医学生としての誇りと見識を有し、海外留学に強い意欲を持っていること。
- ② CBT の IRT 値が 500 以上であること。
- ③ OSCE 共用試験に合格していること。
- ④ 学内 TOEFL の成績が 500 点以上であること。または学外 TOEFL、TOEIC、IELTS の成績証明により、学内 TOEFL500 点以上の成績に相当すること。
なお、成績はいずれも試験日から 2 年以内のもののみ有効とする。
- ⑤ 実践的英語能力を備えていること（Versant などの客観的評価を受けていることが望ましい）。
- ⑥ 海外選択 CC の申込時に本学が指定する予防接種を特別な理由がない場合を除き終了していること。予防接種に対してアレルギーある等理由がある場合は、書面で届けること。

以上が本学の定めている海外 CC の参加条件です。私含め多くの学生にとって、②と③がカギとなってくるはずです。特に③の英語の成績証明に有効期限が設けられたのは私たちの代からで、これが個人的にかなり厄介でした。というのも、学内 TOEFL は毎年 7 月末から 8 月初旬に行われ、海外 CC の申し込みが 11 月中旬であることを考慮すると 3 年生か 4 年生の際に受験する必要があります。私の場合、2 年時に基準をクリアしていましたが、有効期限の設定が 4 年の春に行われた関係で 4 年時に再度受験しなければなりません。4 年時の TOEFL は学内試験と同じ時期にあるため、それらに並行して英語の勉強をし、学内試験が終わってもすぐに CBT があるため、そちらの勉強にも手を抜けず、何かと大変でした。以上を踏まえると TOEFL は 3 年時の受験がお勧めです。3 年生は 1 学期の試験科目が 3 科目しかなく 6 月末には試験が終了するので、そこから約 1 か月英語の勉強にコミットできます。学内 TOEFL の試験構成ですが、Listening, Written & Expression, Reading の 3 つのパートから成ります。それぞれのパートが 67 点満点で、正解し

た問題の割合に応じて 30～67 のスコアが付き、その平均×10 が合計の TOEFL スコアになります。言葉だけだと分かりにくいと思うので、私が実際に 4 年時に受験したスコアを具体例に挙げます。

Listening	Written & Expression	Reading
50	57	53

このようなスコアだった場合、平均が 53.3 になるため、TOEFL スコアは 533 になります。個人的に、日本人の英語学習にとって Written & Expression が最も点を取りやすいパートだと思っています。Written & Expression は、いわゆる文法問題のパートで、短期間での対策が可能でかつ得点が安定しやすいです。私自身、試験までの準備期間は 2 ヶ月しかなく、その時は部活で幹部（サッカー部副主将、アジ研主将）をしていた上にその他の試験勉強に追われていたため、まず Written & Expression で 60 点以上を出せるように徹底的に対策し、その後 Listening と Reading の対策を行いました。後者二つに関しては、ひたすら問題を解いて試験の形式に慣れるようにしたくらいであまり画期的な勉強法はしていません。参考までに私が使用した教材の中で役立った参考書を紹介しておきます。

【参考】

オススメ参考書：

- ・全問正解する TOEFL ITP TEST 文法問題対策（Written & Expression 対策）
- ・改訂版 完全攻略！ TOEFL ITP(R) テスト模試 4 回分[音声 DL 付]

それでも英語が苦手な TOEFL スコアで 500 に満たない、あるいは自信がない方は TOEIC の受験も一つの手だと思います。私の知り合いで TOEIC を受験し、海外 CC の内定をもらっている方もいました。TOEIC は Reading, Listening の 2 パートのみで構成で、日本人英語学習者にとってスコアが取りやすいという利点だけでなく、受験会場も豊富にあり、1 年に複数回受験可能です。もし TOEIC スコアでの海外 CC 応募を考えている方は、事前に教務課に問い合わせて応募に必要なスコアの把握をしておきましょう。

1-1-2 応募書類について

応募書類は Personal Statement, Curriculum Vitae, Application Form の 3 点です（以下 PS, CV, AF と略）。PS と CV は医療関係の仕事に関わらず、アメリカで就職する上では必須となる書類です。PS は英語で書く志望動機書で、普段英作文をする機会がない私は何から書いて良いか戸惑いましたが、現在アメリカのクリーブランドで循環器集中治療専門医としてご活躍されている宮下智先生がアメリカのフェローシッププログラムに参加する際に使用した PS を公開されていたので、そちらを参考にしました。PS の書き方の見本はネットで調べれば出てきますが、特に海外 CC 用の PS は過去に留学に行った先輩に見せていただくのが良いと思います。

す。CV は日本でいう履歴書にあたるもので、学生である私達は履歴書に書くことがあまりありませんので、あまり難しく考えなくて大丈夫だと思います。AF は日本医大が指定する申請書です。日本語なので書きやすいですし、個人的には AF を済ませてから PS を書いた方が書きやすいと思います。

1-2 選考会 (Jan 2023)

例年 1 月の 2 週目ごろに海外 CC の選考会が行われます。選考会の内容は応募者が約 5 分の英語のプレゼンをし、それに対し選考委員の先生方や他の学生が質問をし、発表者がそれに対する応答をするというものでした。私の代は参加者が 2 人しかいなかったこともあり、ほぼ先生からの質問でしたが、一学年下の代は参加者がそれなりに多かったようです。自身の発表が完ぺきにできるようにしておくのはもちろん、どんな質問が来ても返せるような準備をしておくといいと思います。また、他者の発表もただ聞いているだけでなく、しっかり聞いて内容を理解し、積極的に質問する姿勢が大切です。

1-3 選考が決まってから渡米まで (Apr 2023~Dec 2023)

3 月頃に USC に留学することが決まり、そこから滞在先の手配、往復航空券の手配など行いました。滞在先については 3-1 に詳細を記載したので、そちらを参照してください。4 月か 5 月頃に実習の受け入れ期間が決定するので、それをもとに航空券の手配を行いました。基本的に USC 含むアメリカの提携校では最大 1 か月の実習しか受け入れていません。アメリカでの生活に慣れるための期間が必要な場合は、3 月中に渡米し 4 月に一ヶ月留学して、GW 期間中帰国というのが、良いスケジュールのように思います。5 月に渡米を希望する場合は、GW 中に現地へ行き、6 月初旬に帰るのがモデルコースになると思います。

1-4 出国準備

出国 4 か月前から Visa の申請が可能になります。3 か月以内の滞在では ESTA というオンライン上の Visa 申請が行えます。申請自体は 30 分もかからないくらいで行えます。Visa の承諾証明書はもしかすると現地で使う可能性があるのですが、印刷だけでもしておくといいことがあるかもしれません。出国前はオンライン英会話を 3 か月ほど行っていました。英会話を始めたころはほとんど英語が話せなかったので、何もやらないよりかは幾分かマシだった気がしますが、それでも現地に行った時のネイティブのスピード感には呆然としてしまいました。もともと英語力に自信のある方はネイティブの方と話せる英会話などをやった方が現地で面食らわないかもしれません。しかし、1 週間~2 週間いれば慣れるので、そこまで心配する必要もない気がします。オンライン英会話以外には、USMLE の First Aid, First Aid Q & A, USMLE-Rx をそれぞれ購入して、隙間時間に学習していました。内科系を実習で回る場合は、患者さんの診察を任せてもらえる可能性があるのですが、USMLE の STEP2CS の本を購入して、問診の型を記憶し、友達同士で練習するといった思い

ます。

2. Neuroradiology

2-1 Neuroradiology について

私は 1 週目のみ LAC+USC Medical Center で 2 週目～4 週目では Keck Medicine of USC の Neuroradiology での実習を行いました。Neuroradiology を直訳すると神経放射線科と、日本では聞きなれない部門です。ここでは、USC における Neuroradiology の説明をします。実態として、Radiology（放射線科）の中で、Neuro（神経系）に關係する疾患の画像解析を主に行う部門でした。ここでいう Neuro（神経系）とは、Brain（脳）、Spinal Cord（脊髄）、Vertebral（脊椎）の解剖構造を指します。この 3 つの解剖構造の内どれか一つでも異常があった場合は、Neuroradiology にて画像解析が行われます。脳卒中などの脳血管障害や多発性硬化症のような脱髄疾患、外傷による椎体骨折など、解析した例の疾患例は様々でした。Radiology には他にも Body Imaging, Breast Imaging, Emergency Radiology, Musculoskeletal Radiology, Nuclear Medicine, Vascular & Interventional Radiology の部門に分かれていました。実習の形態は、2～3 人の Radiology 所属の Resident と 2～3 人の Neuroradiology 所属の Fellowship の先生がそれぞれ画像解析を行い、その解析結果を上級医である Neuroradiology の Attending に報告し、その報告結果を後ろから私が見学するというものでした。分からないことがあれば自由に質問できるので、主体的に学びを得るには最適な環境であったと言えます。Radiology は日本医大の実習でも 1 週間しか学んでいない上に、医師国家試験でも例年数問、年によっては出題されない場合もあるくらいに普段からあまり馴染みのない分野であるため、新たな学びがあった半面、今まで聞いたことのない内容の医療用語が飛び交うため初めの 1 週間は実習についていくことはおろか、何のテーマについて討論しているのか分からない状態が続いていました。それでも、実習中に分からないことはメモを取りすぐに調べ、調べきれなかった項目を帰宅後に地道に調べていった結果、2 週目以降は既習の項目については幾分か理解できるようになったと思います。

2-2 LAC+USC Medical Center (April 1, 2024～April 5, 2024)

LAC とは Los Angeles County の略で USC における General hospital を指します。日本では、General hospital という存在自体がおそらくないため、簡単に説明すると「誰でも利用可能な病院」と言えます。日本に住んでいれば、誰でも病院が利用できるなんて当然のことのように思えますが、アメリカでは違います。この理由として、日本とアメリカにおける保険制度の違いが背景にあるためです。両国の比較については 5-3 で詳しく説明するので、そちらを参照してください。2-1 で記載した通り、取り扱った疾患は多岐に渡りましたが、個人的に特筆すべきだと思ったのは、患者の多くがホームレスの方だったということです。アメリカでは日本と違い国民の全員が医療保険に加入しているわけではありません。個人の年収や所属する組織によって加入できる保険が異なるゆえ享受できる医療サービスが異なります。ホームレスの方の多くが医療保険に入っていないため、病院への受診が本来であれば困難であるはずなのですが、General hospital という病院が存在するために誰でも医療サービスを受けることができるというわけです。



Los Angeles General Medical Center

2-3 Keck Hospital of USC (April 8, 2024～April 26, 2024)

Keck Hospital は簡潔に説明すると年収が高い方向けの病院です。そういうわけか(?), 建物やその周囲も LAC+USC Medical Center に比べるとなんとなく豪華な見た目になっていた気がしますし、画像の読影室もこちらの方が広がったです。こちらの患者の特徴としては、若い方や重症の方が多かった印象です。実習形態は LAC+USC Medical Center での実習と全く同じでしたが、Keck サイドでの実習は、私の USC での経験を遥かに充実させたものにしてくれました。もちろん 2 週目以降で現地での生活や実習に慣れてきたということも挙げられますが、それ以上に大きな理由があり、それはある人物との出会いでした。彼の名は Mark Shiroishi。この名前を見て、日本人の方かな、と

想像することは容易です。実際には、日本人の両親を持つ日系アメリカ人で、幼少期に日本で暮らしていたそうですが、その後すぐに家族で渡米し、アメリカで育ったそうで、日本語は少しだけ話せる程度でした。Dr. Shiroishi は私が日本人であるという理由(?)で私のことを非常に気にかけてくださいました。彼と出会うまでは、正直実習には参加しているものの、基本的には先生方の議論をただ一方的に聞いているだけの退屈な時間が多かったですが、彼は自分の時間が空いたら 1 対 1 で様々なことを教えてくださいました。その日以降、実習で会う際は特に私のことを気にかけてくれ、私自身も実習に対してのモチベーションを上げることができ、最終週では多くの症例の解析結果を理解することができました。Dr. Shiroishi 以外の Attending の Dr. Phang, Dr. Kan, Dr. Zheng も私もことを気にかけてくださり、彼らと出会えたことが今回の実習でのなよりの収穫だと思っています。



Keck hospital of USC



Neuroradiology staff members

3. 現地での生活

3-1 滞在先

3-1-1 March 23, 2024~March 28, 2024

LA に到着して初めの 5 日間は母も同行してくれたため、USC 近くのホテル（厳密には USC 内の施設？）に滞在しました。こちらは私が実習をしていた Keck Hospital の Hospital2 に非常に近かったです。とはいえ、1 泊 1 人当たり \$170 なので、長期滞在向きではありません。このホテルの隣に USC 関係者用の寮がありましたが、留学生の利用ができるのかは不明です。Hyatt House は部屋にキッチンも付いているため、快適に過ごせるとは思いますが、費用面を考えると長期滞在には向かないと思います。

Hyatt House LA University Medical Center 2200 Trojan Way, Los Angeles, 90033



Hyatt House LA

(citation: <https://www.hyatt.com/hyatt-house/ja-JP/laxxu-hyatt-house-la-university-medical-center>)

3-1-2 March 28, 2024~April 29, 2024

母が帰国してからの滞在先は homestay.com というサイトで探しました。家の所在地は San Gabriel というカリフォルニア州の中でもアジア人、特に中国人が多く住むエリアで、近くのスーパーやレストランもやはり中国語が羅列していました。隣町である Alhambra や Monterey Park、Pasadena も同じような雰囲気でした。このエリアは非常に治安が良く、LA の市街地に比べると物価も安かったです。日本のものもスーパーなどに置いてあるので、海外での生活が不安な方でもすぐに適応できると思います。ゆえに、家探しに悩んだ場合はこのエリアで滞在先を探すのが個人的にはお勧めです。家のオーナーはアメリカ人男性とフィリピン人女性のご夫婦で、ハウスメイトが日本人女性、シンガポール人男性、中国人女性という構成でした。彼らには様々な面で助けて

いただきました。渡航前は、当然のことですが土地勘がなく、上手くやっていけるか不安でしたが、1 か月も経つと名残惜しく、また LA に行く機会があれば必ず立ち寄りたいたいと思えるほど、幸せな時間を過ごすことができました。ちなみに滞在先から USC の病院までは、487 番の Metro Bus で乗り換えなく行け、家からバス停までは歩いて 5 分程度のため、通学も非常に便利でした。参考までに住所を書いておくので、もしこの報告書を見た学生さんで興味がある方は調べてみてください。

8242 Beverly Drive, San Gabriel, California 91175



My house

3-2 通学

実習期間中の移動は LA Metro の Metro Bus をメインに使っていました。LA Metro の利点として、一日の上限(\$ 5)および一週間の上限(\$18)の金額が定められているところです。一回の乗車で\$1.75 なので、実習先との往復で\$3.50、ゆえに土曜日以降に 1 回以上乗車すればそれ以降は日曜日まで無料で LA Metro を利用することができます。また、2 時間以内の乗り換えであれば、これも無料です。さらに、LA Metro はバスだけでなく地下鉄を利用することもでき、これらを上手く利用すれば、格安で様々なところへ移動できます。利用の際は TAP カードというアプリをダウンロードするか、駅でカードそのものを購入すると良いです（後者はカードの発行料がかかります）。便利な LA Metro ですが、料金が格安なだけにそれが仇となって、車内の治安が悪くなることもし

ばしばです。特に電車は無人改札で、乗車する際にカードを改札機にタップする形式なので、無賃乗車が可能な作りになっており、ホームレスや酔っ払いの人などが乗っていることもしばしばありました。実際、私が滞在していた期間に LA Metro の地下鉄のある駅で、ホームレスの男性が乗客を刺殺したという大変痛ましい事件もあったほどです。LA は車での移動が圧倒的に便利であり、ほとんどの人が車を保有しています。学生や高齢者、そもそもの移動範囲が LA Metro 内で済む人などそれぞれの事情があるので、一概に LA Metro が危険とは言えませんが、利用の際は上記のことを十分に理解してから利用すると思います。Uber や Lyft などのライドシェアアプリも発達しており、これらは非常に安全で LA 内の移動では大変役に立ちますが、料金が高額であるため 1 人で留学していた私には使い勝手が悪く、ほとんど利用しませんでした。個人的には、3~4 人での利用および車でないとアクセスが難しい場合にお勧めです。

4. 観光

この項目は、報告書におけるメインではありませんが、せっかく LA に来たのであれば実習と同じくらい観光は楽しむべきであるという私個人の見解から記すことにします。

4-1 Down Town Los Angeles (DTLA)

LA で最もカオスなところです。Little Tokyo, Art district, China town, The broad, City Hall, Grand Central Market など様々な観光スポットがあります。バスの利用がオススメです。意外と一日では回り切れないほど様々なものが充実しているため、実習が早く終わった日に 1 スポット行きたい場所を決めて観光すると良いと思います。そんな魅力的な DTLA ですが、Skid Row など非常に危険なエリアが隣り合わせにあり仮に安全な場所にいても 1 ブロック歩いただけで一気に世界が変わるため、自身が訪問しようと考えているエリアの下調べは必須です。

4-2 Hollywood

LA 観光で最初に思い浮かべるところではないでしょうか。床にハリウッドスターの名前が刻印された Walk of Fame やアカデミー賞授賞式の会場である Dolby theater などがあります。私はここでしゃべるミッキーマウスと一緒に写真を撮らないかと声を掛けられ快く承諾してしまったところチップを請求されるというプチ事件に巻き込まれました。結局チップは払いませんでしたが、これは海外慣れしていない私の危機管理能力の低さが引き起こしたもので非常に反省しております。Hollywood に限らず、有名観光地にはこのような手法でチップを請求してくる方が多く注意が必要です。Hollywood まで行くには地下鉄の B line を利用すると便利ですが、3-2 で記載の通り B line は非常に車内の治安が悪く、A~K までである地下鉄の中で最悪とされています。私自身も B line だけは利用していないので、実際の様子をお伝えすることはできませんが、特別な用がない限りは乗車しないほうが無難に思われます。

4-3 Santa Monica

巨大なビーチが一面に広がるビーチです。かつてアメリカ合衆国を東西につなぐ Route

66 の終着点があるということでも有名です。Santa Monica までは E line という電車が繋がっており、そちらを利用すると良いです。車内の治安は LAMetro ということを考えてまずまずだと思います。本音を言うと、夕陽が沈むまで観光をしたかったのですが、日没が 19 時過ぎであり、かつ滞在先から片道約 3 時間かかることを考えると、現実的ではなく 16 時ごろ Santa Monica を後にしました。こちらも Hollywood 同様、観光客を狙ったチップを請求してくる人達がいるので注意が必要です。

4-4 Griffith Observatory

個人的に LA 観光で一番お気に入りのところですよ。こちらの天文台からは LA の街並みが一望できます。明るいうちに行けば、Hollywood サインが綺麗に見え、夜は夜景を楽しむことができます。Vermont sunset 駅から DASH というバスが出ており、公共交通機関の利用ならこちらが便利ですが、Vermont sunset 駅まで行くのにやはり B line を使う必要があり、夜景を見てから帰ることを考えると夜行くのはかなりハードルが高いです。そういう時は、迷わず Uber や Lyft などを利用しましょう。

4-5 Beverly Hills

ハリウッドスターなどの住宅地がある高級住宅街です。観光バスで通っただけなので、これといった印象はありません。

4-6 Dodger's Stadium

ちょうど私が LA に行く 1 か月ほど前に大谷翔平選手と山本由伸選手が Los Angeles Dodgers に入団したこともあり、ここに行かずには日本に帰れないと思い、滞在中 2 回も試合を観に行きました。Dodgers の試合がある際は、LA の街の交通渋滞がいつも以上に激しくなるほど、街全体がお祭り騒ぎのようになります。会場までのアクセス方法は様々ですが、Union Station から Dodgers Express という球場までのバス直行便の利用が良いと思います。バス内は当然ながら Dodgers ファンで埋め尽くされ、試合前から熱狂的な雰囲気を感じられます。なお、球場に入る際は荷物のセキュリティチェックが厳格に行われるため、持ち物には十分注意する必要があります。帰りの際は、これまたとてつもない渋滞にはまるため、Dodgers Express や Uber などは利用せず、球場から 15 分程坂を下った 4 番バスのバス停から市街地に出ました。この方法だと帰る際の交通渋滞の影響を受けにくく比較的スムーズに帰宅できます。野球観戦が好きな人なら、ここは絶対に行くことをお勧めします。



Dodger's Stadium

4-7 Pasadena

こちらはLAの市街地から少し離れたところにある街で、American Got Talentの会場となっているPasadena Civic Auditoriumや、Norton memorial museum、Gamble houseがあります。LAMetroの交通網が発達していることもあり、半日で主要な観光スポットを回ることができます。

4-8 Hermosa beach

こちらはかなり上級者向けです。基本的に車がないと立ち寄るのが難しいスポットです。LAのビーチというと誰もがSanta Monicaを浮かべるとと思いますが、Santa Monicaに比べてこちらの方が静かできれいであったため個人的にはこちらのビーチの方が好みでした。

4-9 Rancho Palos Verdes

こちらもHermosa beachと同等かそれ以上に車がないと行くのが困難なエリアです。まるでハワイにいるような海が広がり、そちらを見下ろすことができる超高級住宅地が立ち並んでいます。アメリカ合衆国の第45代大統領のドナルド・トランプ氏が愛用するゴルフコースもあります。私は幸いにも、実習最終日を休みにしてもらった上に、Dr. Shiroishiと休みの日が被ったことで、こちらまでドライブに連れて行っていただくことができました。



Rancho Palos Verdes (左：Dr. Shiroishi と)

5. 日本とアメリカの違い

5-1 臨床実習

今回留学するにあたって、過去に USC に留学された先輩方の報告書をいくつか拝見しましたが、そのほとんどが医療チームの一員としてみなされて日本でいう研修医のような立ち位置で実習を行ったと記載されていました。私自身 **Neuroradiology** での実習が決まった時は自身の興味がある **Neuro** というワードにひきつけられて神経系の身体診察をさせてくれる機会に恵まれるのではないかと勝手に妄想を膨らませていましたが、実際はひたすらに画像解析を行う部門で、患者さんと触れ合う機会があったのは実習最終日の **Bone Biopsy** (骨髄穿刺) のみでした。また私の USC での立ち位置は **Visiting Medical Student** で、**Neuroradiology** の先生方も自大学を訪問にしに来た学生さんという認識であったため、何か放射線レポートを書いたり、画像の評価を行うという機会は全くありませんでした。冷静に考えてみればそれもそのはずで、放射線レポートを日本の病院でさえ日本の学生が一人前に書けるはずもなく、それを海外で行うというのは現実的ではありません。それ以外でさらに驚いたこととして、USC の学生の実習に対する態度です。アメリカでは、**Medical School** 卒業後に良い **Residency Program** にマッチするためには、**USMLE** で高得点を取り、さらに臨床実習で良い評価をもらい、全国的に名の知れた複数の **Attending** から推薦状をもらうなどしないといけないそうです。また、**Radiology** は数ある診療科の中でもかなり人気のプログラムのようです。そのため、臨床実習では **Attending** に気に入られるように積極的に発言したり、自らプレゼンをしたりするのかと思っていましたが、私が出会った学生はいずれも実習が始まる定時ギリギリに登校し、実習に来たことを証明するサインを先生からもらい、お昼前には下校していました。実習内容も私とほとんど同じで、**Fellow** や **Resident** の先生が **Attending** の先生に対し症例プレゼンするところを後ろから聞いているだけで、ある意味日本での実習と似ていたような気がします。ただこのような事態が起きた原因として、

先程述べたように学生レベルで放射線レポートの作成や画像の評価が難しいことやそもそも私が参加したプログラムが Advanced Radiology Diagnostic という USC の学生でも皆が必修のプログラムではなく Radiology に興味がある学生のみが取るものであったことが挙げられます。

5-2 Neuroradiology と日本医大放射線科および神経内科

日本特に日本医大に関しては、脳卒中疑いの患者が運ばれてきたときに神経内科の Dr. が初療にあたり、画像解析、その後の集中管理まで行います。その際、画像解析が困難な場合に放射線科に読影をお願いするという流れが一般のようです。Neuroradiology では 2-1 で説明した通り脳、脊髄、脊椎のいずれかに異常が見られた場合 Neuroradiology に画像が送られて、その後 Neuroradiology staff が解析を行いレポートを書き上げます。一般的に日本の医師は Generalist、アメリカの医師は Specialist と言われますが、私が経験した限りでは正にその通りだったと言えます。別の視点で、相違点を挙げるとするならば、日本医大放射線科のレポートはおそらくタイピングによって作成されていると思いますが、USC ではボイスレコーダーに向かって検査所見を述べると自動で文章作成がなされるという方式をとっていました。ある Attending の先生に日本でもボイスレコーダーを使うのが主流なのかと聞かれ、おそらく違うと思うと返したところ大変驚かされていました。これに関しては、日本語と英語の言語の違いが大きく関係していると思います。ここからはだいたい私見が入るので、正確性は保証されませんが、私なりにこの違いを説明しようと思います。例えば、ある構造物に異常が認められない場合、放射線科レポートでは「〇〇に異常はありません」と書かれることが多いです。使用している PC の機材にもよりますが、ほとんどの場合(まして病院で使われているような機材なら)予測変換機能があるはずです。ですので、異常の「い」の字を打っただけで「異常はありません」の予測変換が出てきてもおかしくはありません。一方英語で異常所見がない場合〇〇 is (are) unremarkable. No 〇〇 is recognized. There is no 〇〇 (seen). などと書かれることが多いです。そもそも異常所見が見当たらないという意味合いでもこれだけの種類の書き方があり、さらに〇〇 is (are) unremarkable. の例でいけば、is (are)が打たれた時点では次の言葉は予測できません。他にも、日本語のタイピングはローマ字が基本的に使用されていて、「あ」や「か」など一文字作成するのにタイピングするキーボードの数は 3 つ以内に収まります。しかし、英単語で 3 letters 以内に収まるものはあまりなく、一つ文章を書くだけでも日本語と英語ではタイピング数が大きく異なります。以上の見解から、英語でのレポートは音声入力の方が早く、そちらの方がより効率的なのだと思います。実際のところ放射線科医の働き方をあまり存じ上げないので、もしかしたら既に日本で音声入力によるレポート作成を導入している病院があるのかもしれませんが、実際のところタイピングでも音声入力でもスピードはほとんど変わらないような気がします。

5-3 保険制度

前提として、世界中の医療保険制度は大きく Beveridge model, National Health Insurance Model, Bismarck model, Out-of-Pocket model の4つに分類され、日本では Bismarck model アメリカでは上記の4制度が混在しているそうです。Bismarck model というのは複数の Insurers（保険を提供する人）が存在して、Insurers（保険を提供する人）と Providers（保険を受ける人）の両方が民営として機能している制度のことです。一方アメリカでは、特定の子供が加入できる児童医療保険プログラム（CHIP: Children's Health Insurance Program）、退役軍人が加入できる保険制度（VHA: Veterans Health Administration）、65歳以上の高齢者や特定の疾患に罹患している患者が対象となる Medicare と、一定の条件を満たした低所得者が対象となる Medicaid という公的医療保険制度があります。これらの制度の対象者以外は、勤務先（雇用主）が加入している民間医療保険への加入を検討する必要があり、大部分の人が民間医療保険に加入しています。民間医療保険では、定額の自己負担率に沿って医療費を払うという Manage care が一般的とされ、さらにこの Manage care が4種類に分けられます。それぞれの説明については、割愛しますが、要約すると自由度の高い保険に加入するほど、料金が高額になっていくというシステムです。自由度の高いというのは「この病院で入院したい」「この先生に診てもらいたい」などといった希望が通りやすいことを意味します。上記のような理由から医療保険を活用できない人が多くいるというのがアメリカの現状のようで、高額な医療費によって破産する方もいるそうです。

6. 最後に

過去に日本医大から USC の Radiology で実習を行った先輩は私の知る限りではいなかったため、事前にどのようなことを準備すれば良いかや実習に対する心構えなど、現地に行ってから手探りの状態で始めなければいけませんでした。その上、アメリカに留学する日本医大の同期が一人もいないという珍事にも巡り合い、かなりチャレンジングな留学になったと思っています。しかし、ピンチはチャンスでもあり、一人だからこそ出来たこと、むしろ一人でなければ出来なかったことが多数あったとも思っています。そういった環境の中、混沌渦巻く都市 Los Angeles で1か月 Survive できたのは、自身にとって大きな財産になりましたし、この1か月で成長できたと確信しています。本報告書を読んでもくれた学生さんへ向けて一言。「留学」という言葉を聞いて「なんか面白そう」という人はもちろん「不安だけど行ってみたい」という方は是非海外 CC に応募してみてください。留学に行けなかったことに後悔という感情はあるとは思いますが、行って後悔するということは上記のようなマインドセットがある人ならまずありえないと思うので。特に低学年の学生さんは、上級生に比べてたくさん時間があるので、アジ研や NIH への留学などにもぜひチャレンジしてほしいと思います。少し話は逸れますが、ちょうど本書を執筆中にハワイ大学医学部 Summer Medical Education Institute Student Workshop のお知らせが来ました。対象学年が1,2,3,6年生となっていますが、6年生はこの時期マッチングや総合試験がある関係で実質的に応募できません。このプ

プログラムが来年度以降も継続するかは不明ですが夏休み期間なので、費用面を除けば参加のハードルは低いはずです。おそらくこのような短期留学プログラムは今後増えていくと思います。高学年は（特に日本医大の学生は？）忙しく短期留学プログラムに参加したくても講義や実習があつて思うように時間が取れないので、やはり低学年の内からこういったプログラムに積極的に参加できると良い経験になるのではないかと思います。最後に、様々な面でサポートしてくれた現地のホストファミリーのみなさんと私の母、家族、国際交流センターの王さんはじめスタッフの方々、教務課の加部さん、篠崎さん、留学に関する相談に乗ってくださった日本医大の先輩など、ここには書き表せないほどの方々に支えられて、このような素晴らしい経験をさせていただくことができました。私の留学に関わってくれた全ての方に感謝し、この報告書を締めたいと思います。